89

Business Letter
News&Topics

浅田会計事務所
ASADA BUSINESS SERVICE

平成 29 年 5 月 19 日発行

「法定相続情報証明制度」がスタート

相続が発生すると遺産分割（財産分け）を行い、その結果に沿って、相続税の申告や不動産・預金の名義変更など、様々な手続きを行わなければなりませんが、準備しなければならない書類も多岐にわたり、最低限でも以下のものが必要です。

・亡くなった方（被相続人）の出生から死亡までの戸籍（除籍）謄本
・被相続人の戸籍の附票（住所の推移）
・相続人の戸籍謄本
・相続人の住民票
・相続人の印鑑証明

遺産分割というのは、原則として全ての相続人の同意が必要なので、誰が相続人なのか、相続人本人が同意しているのか、といったことを明らかにしなければなりません。となると、どうしてもこれだけの書類が必要になってしまいます。

しかもこれらの書類は、相続税の申告なら税務署へ、不動産の登記なら法務局へ、預金の名義変更なら銀行へ、それぞれ提出しなければなりませんので、１部ずつでは足りません。そうなってくると、人によってはかなりの部数が必要になりますし、遠方であれば郵便で取り寄せたりしなければなりませんので、費用や手間の面で相続人の負担も軽くはありません。

こういった負担を軽減し、スムーズな相続手続きを促すため、平成 29 年 5 月 29 日から**「法定相続情報証明制度」**がはじまりました。
「法定相続情報」とは「誰が相続人なのか」という情報です。それを法務局が証明してくれる訳です。

相続が発生した場合、弊社でも相続人の一覧表（家系図）を作りますが、これを戸籍などと共に法務局に提出すると、法務局がその内容を確認し、「この一覧表に記載されている人は相続人で間違いありません」という証明書を発行してくれます。

不動産の登記や預金の名義変更などは戸籍の代わりにこの証明書で可能となります。また、相続税申告書への添付や車の名義変更など、幅広く使えるように法務省と各省庁で協議をしているようです。

これまでの費用や手間がかなり軽減される画期的な制度だと思いますので、多くの手続きで利用できるよう、法務省には頑張ってほしいところです。

Ｎ分Ｎ乗方式（世帯課税方式）を検討

子どもの多い世帯ほど所得税が軽減される「Ｎ分Ｎ乗方式（世帯課税方式）」の導入に向け、自民党の有志議員による研究会がスタートしています。体表的な例としては、第 2 次世界大戦以降の**人口減少を緩和させる目的**で、1946 年よりフランスで導入されています。現在の所得税は、個人に課税され、共働きでは夫と妻それぞれに課税されています。また、所得額が大きいほど税率が高くなる累進課税で、5%から 45%までの７段階に分かれています。これに対して「Ｎ分Ｎ乗方式（世帯課税方式）」では、まず課税所得を世帯で合算したものを家族の人数（Ｎ）で割り、累進税率を適用。その上で、再びＮを掛け合わせて税額を算出するといったものです。

【夫（年間所得 300 万円）　妻（年間所得 300 万円）　子（小学生が 2 人）の世帯の例】

現在の所得税法

夫の所得税　300 万円×10%－97,500 円 ＝ 202,500 円
妻の所得税　300 万円×10%－97,500 円 ＝ 202,500 円
所得税合計　**405,000 円**

Ｎ分Ｎ乗方式（世帯課税方式）

世帯の合計所得額　夫 300 万円 ＋ 妻 300 万円 ＝ 600 万円
家族人数割り（Ｎ分）600 万円 ÷ 4 人 ＝ 150 万円
累進税率適用　150 万円 × 5% ＝ 75,000 円
所得税合計　（Ｎ乗）75,000 円 × 4 人 ＝ **300,000 円**

（所得税の速見表）

課税される所得金額	税率	控除額
195万円以下	5%	―――
330万円以下	10%	9.75万円
695万円以下	20%	42.75万円
900万円以下	23%	63.60万円
1,800万円以下	33%	153.60万円
4,000万円以下	40%	279.60万円
4,000万円超	45%	479.60万円

上記例の通り、子どもが多い世帯ほど課税所得が細かく分割され、より低い税率が適用されて税額が少なくなる仕組みです。そのため、高所得世帯に比べ、もともと所得税額が少ない中低所得世帯では分割しても適用税率が変わらず、税負担の軽減効果が得られない。また、就労意欲に抑制効果が働く懸念もあり、財務省も慎重姿勢になっています。

おすすめの本のご紹介

特捜部Ｑ　～檻の中の女～　ハヤカワ・ミステリ文庫　ユッシ・エーズラ・オールズン（著）

最近よく目にする北欧ミステリ。こちらはデンマークの作品です。過去の未解決事件に再び光を当てる、という美名の下に新設された特捜部Ｑ。しかしその実態は、窓一つない地下のオフィスとたった一人の部員。予算獲得のためだけに作られ、何ら成果を期待されていないのは明らかです。そしてその統括を命じられたのは、能力はあるが協調性がなく上司と衝突してばかりの主人公カール・マーク。厄介払いとばかりに特捜部Ｑへ追いやられたカールですが、決して挫けません。さっそく取り掛かったのは、５年前の女性議員失踪事件。再調査を始めるうちに次々と新事実が明らかになり・・・

「警察組織の中の一匹狼」という刑事ものではよくある設定ですが、たった一人の部下であるアサドの変人っぷりが強烈で、ハードボイルドとコメディが上手くミックスされています。ストーリーは、５年前（女性議員の失踪）と現在（再調査するカール）、という時間差同時進行ですが、この２つの時間軸が一つに集約するラスト１００ページは圧巻です。ぜひご一読下さい。